

## 氷川河口・九州新幹線架橋計画 要望書

熊本県八代郡氷川河口のクロツラヘラサギ越冬地保護に関する要望書

2000年3月28日

運輸大臣、環境庁長官宛

財団法人日本野鳥の会（会長：黒田長久、会員数5万5千人）は、3月28日に、運輸大臣および環境庁長官に対して、九州新幹線の架橋計画で影響が懸念される熊本県氷川河口のクロツラヘラサギ越冬地保護について要望書を提出しました。

クロツラヘラサギは、世界でも東アジアの一部にしか生息しない水鳥で、生息数は約600羽程度と推測されており、極めて絶滅のおそれが高い鳥です。日本には主に越冬のため、九州を中心に70羽前後が渡来します。そのため日本では、環境庁のレッドリストでもっとも絶滅のおそれの高い「絶滅危惧ⅠA類」に選定されています。

熊本県の氷川河口は、八代郡の鏡町と竜北町の境にあり、八代海（不知火海）に面しています。この氷川河口には数年前からクロツラヘラサギが越冬に訪れるようになり、今年の1月には最大16羽、昨年1月には15羽の渡来が確認されました。昨年1月に行われた全国一斉調査では、福岡県の博多湾に次いで国内で2番目に渡来数の多い越冬地となっています。氷川河口のクロツラヘラサギは、干潮時に八代海の広大な干潟に出て餌をとり、満潮時は河口の中州で休息しています。

この氷川河口に計画されている九州新幹線の鉄橋は、クロツラヘラサギが休息している中州をちょうど横切るかたちになっており、計画どおり着工されますとクロツラヘラサギへの影響は確実と考えられます。そのため、運輸大臣に対して路線の変更や地下トンネル化などの影響回避策を幅広く検討して実施することを求めるとともに、環境庁長官に対しても越冬地の保護を求めたものです。

要望書

日野鳥発第 145 号  
平成 12 年 3 月 28 日

運輸大臣  
二階 俊博 様

財団法人 日本野鳥の会  
会長 黒田 長久

### 熊本県八代郡氷川河口のクロツラヘラサギ越冬地保護に関する要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃は本会の自然保護事業に格段のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、熊本県八代郡の氷川河口には、毎年クロツラヘラサギが十数羽越冬に渡来しており、1999～2000 年の越冬期にも最大で 16 羽の渡来が本会熊本県支部の調査で確認されています。クロツラヘラサギは、世界で 600 羽程度しか生息していないといわれる絶滅のおそれの高い鳥類で、環境庁のレッドリストでは絶滅危惧 I A 類に指定されています。日本には、例年数十羽が主に九州地方に越冬のため渡来しています。

ところが、この氷川河口のクロツラヘラサギ越冬地に、新幹線が通る計画があります。計画では、クロツラヘラサギが満潮時の休息場所としている中州の真上に鉄橋が架かることとなっており、このまま着工されますと影響は確実と考えられます。つきましては、クロツラヘラサギの越冬地保護のため、下記について要望いたします。

敬具

#### 記

1. 路線の変更や地下トンネル化など、影響を回避・低減する方策を幅広く検討し、実施すること。
2. 前項の影響回避策の検討は、地元の自然保護団体などの意見を十分に踏まえて行うこと。

以上

日野鳥発第 146 号  
平成 12 年 3 月 28 日

環境庁長官  
清水 嘉与子 様

財団法人 日本野鳥の会  
会長 黒田 長久

### 熊本県八代郡氷川河口のクロツラヘラサギ越冬地保護に関する要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃は本会の自然保護事業に格段のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、熊本県八代郡の氷川河口には、毎年クロツラヘラサギが十数羽越冬に渡来しており、1999～2000 年の越冬期にも最大で 16 羽の渡来が本会熊本県支部の調査で確認されています。クロツラヘラサギは、世界で 600 羽程度しか生息していないといわれる絶滅のおそれの高い鳥類で、貴庁のレッドリストでは絶滅危惧 I A 類に指定されています。日本には、例年数十羽が主に九州地方に越冬のため渡来しています。

ところが、この氷川河口のクロツラヘラサギ越冬地に、新幹線が通る計画があります。計画では、クロツラヘラサギが満潮時の休息場所としている中州の真上に鉄橋が架かることとなっており、このまま着工されますと影響は確実と考えられます。つきましては、クロツラヘラサギの越冬地保護のため、特段のご配慮をいただきますよう要望いたします。

敬具